

# 夢へ発掘調査進む

県都・静岡市の中心部にある駿府城公園内で「駿府城跡天守台発掘調査」が行われている。発掘現場では、徳川家の家紋「三つ葉葵」などをあしらったそろ

いのユニホームとヘルメット姿の調査員が作業している。見学コースやPRの「発掘情報館」まであり、地味な学術調査というよりイベント的な雰囲気が漂つ

てている。  
名前は「駿府城公園」で

# 一字 一筆

静岡の今

がないのである。昨年8月に始まつた静岡市による発掘調査は、その天守閣の土台部分に当たる天守台の遺構を明らかにしようというプロジェクトである。

静岡市は第3次総合計画（2015年～2022年）の中で「健康長寿のまち」と「歴史文化のまち」を目指すとしている。駿府城公園の整備は、歴史文化のまち造りの「一丁目一番地」だ。背景には「駿府城公園にお城を」という多くの市民の悲願がある。

発掘調査は2020年2月までの予定。市は、調査結果を踏まえて天守台や天守閣の再建につなげたいとしているが、莫大な経費や技術的な問題などもあり、「市民の夢」が実現するには時間がかかりそうだ。

発掘調査が進む天守台を背にして、鷹狩り姿の家康像が立っている。慶長12年（1607年）、全国の大名に負担を命じた「天下普請」で駿府城には天守閣もそびえていた。鷹を左手に乗せ昂然と立つ家康は、「居城再建を」と言つてはるようにも見えた。

その口元を、ほのかに暖かい「立春」の風がなでた。（前静岡県監査委員・富永久雄）



夢の発掘調査——調査員は葵の紋章入りのビブスで作業している（静岡市、全日写連中村明弘さん撮影）